

特集1 — リモート市民現場見学会

特集2 — ①けんせつフェア北陸in新潟
②建設技術報告会

特集3 — 社会資本整備の重要性に関する
シンポジウム

71 2022.2



▲ 敦賀港緑地公園(ミライエ)



会員各社名

アイサワ工業(株)	オリエンタル白石(株)	大成建設(株)	東洋建設(株)	(株)本間組
青木あすなろ建設(株)	(株)加賀田組	大成ロテック(株)	戸田建設(株)	前田建設工業(株)
あおみ建設(株)	鹿島建設(株)	大日本土木(株)	飛鳥建設(株)	(株)丸山工務所
(株)安藤・間	(株)熊谷組	大豊建設(株)	西松建設(株)	三井住友建設(株)
石黒建設(株)	(株)鴻池組	(株)竹中土木	日特建設(株)	みらい建設工業(株)
岩田地崎建設(株)	五洋建設(株)	田辺建設(株)	日本国土開発(株)	名工建設(株)
(株)植木組	佐藤工業(株)	鉄建建設(株)	(株)福田組	りんかい日産建設(株)
(株)大林組	清水建設(株)	東亜建設工業(株)	(株)フジタ	若築建設(株)
(株)大本組	(株)銭高組	東急建設(株)	(株)不動テトラ	
(株)奥村組	第一建設工業(株)	東鉄工業(株)	(株)北都組	(48社)

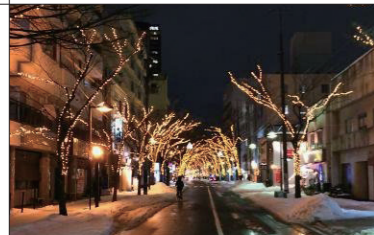


71 2022.2

発行 一般社団法人 日本建設業連合会 北陸支部 広報委員会
〒950-0965 新潟市中央区新光町6番地1(興和ビル7F) TEL(025)285-8886

印刷 新潟中央印刷

2022.2.20 発行



「建設業のこれから」

前田建設工業株式会社
執行役員北陸支店長
安西 忠信
Tadanobu Anzai



71 CONTENTS

1	VISION 「建設業のこれから」
2	随想 『持続可能な社会づくりに向けて』
3	特集① リモート市民現場見学会
5	特集② ①けんせつフェア北陸in新潟2021 ②建設技術報告会
8	特集③ 社会資本整備の重要性に関する シンポジウム
9	現場で輝くけんせつ小町 「建設業に明るい未来を切り拓く」
10	エッセイ 『命について』
11	ゆうたいむす ●「eco」で作る事の楽しさを伝えていきたい ●「瓦でコラボ、つながるAGANO」 ●「佐渡島で世界に通用するクラフトビールを造る」 ●「セルフケアで身体が楽に♪ 自分の身体は自分で守る!!」
13	私のプライベートタイム 「北陸に帰ってきて思うこと」
14	事務局だより

■表紙の写真
・工事名：信濃川左岸流域農業水利事業
1号幹線用水路1号トンネル建設工事
・発注者：農林水産省 北陸農政局
・施工者：株式会社 熊谷組
・工事場所：新潟県小千谷市千谷地内ほか
・工期：令和1年12月13日～令和5年11月30日
・シールド工事：掘進延長 L=2,627m(現在シールド工事掘進中)
泥土圧式シールド工法(マシン外径φ4,050)
二次覆工省略型セグメント(外径φ3,900、内径φ3,500)

東京オリンピックは無事終わりましたが、新型コロナウイルスによる感染症は拡大からほぼ2年が過ぎても未だ終息を見せていません。ワクチン接種や行動制限、飲食業の時短営業など様々な対策を講じた結果ようやくコロナ感染症は沈静化しつつありましたが、オミクロン株の出現により再び感染が拡大し完全終息への道筋が見えない状況です。建設業においては日建連の指導に従い感染拡大防止に努めてきたこともあり、新型コロナウイルスの影響は飲食業等に比べると限定的な被害で済みましたが、今後も投資控えなどによる影響が気になる場所でもあります。

最近日本では気候変動による自然災害(集中豪雨、台風による水害等)が多発、激甚化しており、それらの有事の際には各地の建設業は非常に重要な存在であります。また日本全国で老朽化したインフラの被害も出てきており、これらの対応にも建設業の必要性がより高まっている状況です。しかし、建設業においては現在技能労働者の高齢化や担い手確保、働き方改革、生産性向上などの課題があります。それらの課題解決のため日建連でも週休二日の実現、長時間労働の是正、建設キャリアアップシステムの普及促進やBIM/CIM、ICT 建機やドローンの活用などによる生産性向上対

策も行われ、効果も出てきていますがまだ十分とは言えません。

2050年にCO2排出を実質ゼロにするカーボンニュートラルの達成に向け、建設業においても再生可能エネルギー市場の拡大など、最近の業界を取り巻く環境の変化は激しく、変化のスピードも増しており、これらの変化によりスピードアップした対応が必要になります。国や地域の課題も大きく変わってきており、今までの待ち、受け身の態勢から、今後は国や地域課題の解決に向け積極的に提案していくなど攻めの対応も必要になってくると思われます。最近では民間企業のノウハウが活かされるECI、PFI、上下水道事業の民間委託、公共施設の包括管理などの案件も増加してきており、建設会社が積極的に取り組み、提案することも可能になってきています。全国におけるインフラの老朽化や担い手の不足などは喫緊の課題であり、これらの課題に対しても建設会社が積極的に関与し企画、提案を行うことがこれからの時代求められるのではないのでしょうか。建設会社には様々な知見、技術力があり地域に貢献できると思います。時代の変化に柔軟にそして素早く対応し、国、地域の課題に積極的に取り組むことで、社会から必要とされる建設業であり続けたいと思います。



『持続可能な社会づくりに向けて』

新潟県 土木部長
金子 法泰
Noriyasu Kaneko



国内で初めて新型コロナウイルス感染症(以下「新型コロナ」という)の罹患者が報告されてから3年目となりました。振り返れば、この2年間、日本をはじめとする世界は新型コロナへの対応に奔走してきました。

改元が行われ、令和という時代に希望と期待が膨らむ中で、社会は新型コロナにより大きく変動しました。それでも、人類の英知によりワクチンが開発され、接種が進み、行動変容によりポストコロナ時代の社会発展に向けた取組が進められています。

改めて、日夜私たちの健康や日常生活、経済活動を支えてくださっている医療関係者、及び建設業を始めとするエッセンシャルワーカーの皆様にご感謝申し上げます。

社会・経済活動が新型コロナ禍前に戻るには、まだ時間が必要ですが、令和4年内に、仲間たちと一緒に安心して、笑顔で好きなことができる日常が戻ってくることを期待しています。

一方で、新型コロナを通して顕在化した社会課題があります。デジタル及び分散型社会の推進、あるいは医療体制の充実等です。加えて、令和3年も豪雨による自然災害が発生し、多くの死傷者が出たことから、気候危機への

対応となるグリーン社会形成に向けた取組は、喫緊の課題としてクローズアップされました。

また、新潟県では、昨冬、観測史上最高となる短時間降雪量により県民生活や経済活動に支障となる雪害が発生しました。持続可能な社会を築いていくためにも、グリーンやSDGs等は欠かすことのできないキーワードであり、その中で、建設産業が担う役割の大きさを共有する必要があります。

建設産業は、いつの時代も民生の安定及び社会の発展に不可欠な産業です。激甚化する豪雨災害への対応や日々の私たちの暮らしを守る作業はもとより、人口減少により地域力が低下する中で、地域の伝統文化を継承していく役割も果たしています。今、私たちが得ている豊かさは先人たちが築いてきた基盤からもたらされていることを忘れてはなりません。

こうした重要な役割を担う建設産業の振興を目的に、本県では平成18年から新潟県建設産業活性化プランを作成し、5年毎に見直ししてきました。令和3年3月に改訂された第4次活性化プランの目標は「持続可能な社会づくりに貢献する建設産業をめざして」としています。

策定においては、委員会を設置し、

前プランでの5年間の取組実績・効果について評価いただくとともに、第4次プランの目標及び取組の方向性等について議論していただきました。

このような過程から改訂された第4次プランでは、経営基盤の強化、人材の確保・育成及び生産性の向上の3本の柱を立てており、新3K(給与・休暇・希望)の職場を実現するためにICTを含む建設DX及び週休2日の推進が求められていると思います。

また、第4次プランでは、SDGsの取組推進を掲げています。建設産業がSDGs達成に果たしている役割を伝える事は、産業イメージのイノベーションに繋がり、将来の担い手確保にとって重要であると考えています。

このような視点のもと、本県では令和3年9月に、「新潟県SDGs推進建設企業登録制度」を新たに創設しました。地元銀行等の協力を得て、登録制度の周知に努めています。

今後、SDGsに取り組む建設企業が増加することにより、建設産業への国民の関心がより一層高まるとともに、希望に満ちた未来に向けて建設産業が、社会・経済・環境が調和した持続可能な社会づくりの牽引役の役割を果たしていくことを願っております。

学生を対象とした「リモート市民現場見学会」を開催

安全に、豊かに、安心して暮らせるよう貢献している建設現場で働く人を出来るだけ身近に感じてもらう、また、社会資本整備の重要性についての理解を得るため、今年度は新型コロナ感染防止の観点からリモートでの現場見学会を開催しました。



- 日時：2021年7月26日(月) 14:00～16:00
- 現場名：大河津分水路新第二床固改築Ⅰ期工事
- 場所：金沢大学 講義室
大河津分水路新第二床固改築JV工事事務所 会議室
- 参加者：金沢大学 学生37名、先生2名
- 使用ソフト：Microsoft Teams



当日の流れ	
1 工事概要説明	約40分
2 工事状況の映像	約30分
<ul style="list-style-type: none"> ・2019.10月の台風19号による大洪水の状況 ・現場での施工状況映像 ・既設水叩き撤去工 (ケーソン据付場所の既設水叩きコンクリート撤去) ・仮設栈橋設置工(既設副堰堤上に設置する工事用栈橋) ・リブラ構台設置工(追加設置した作業構台) ・流水対策杭工(昨年の台風19号の影響による追加対策) ・鋼殻ケーソン曳航～現地据付工(1函目) ・中詰めコンクリート工(鋼殻ケーソン内のコンクリート打設) ・越流プレート設置工(鋼殻ケーソン上部の越流工) ・鋼殻ケーソン曳航～現地据付工(2函目) 	
3 若手社員の1日	約10分
4 質疑応答	約40分



当日は、工事概要の説明後、現場の施工状況をパワーポイントと映像で説明し、理解を深めていただきました。また、入社5年目の若手社員より「若手社員の一日」と題し、若手社員の一日の過ごし方を説明しました。質疑応答では学生から、「大学時代の研究と仕事はリンクしないのか」、「仕事のモチベーションは何か」などの工事以外の質問もあり、ゼネコンで働くことに対する興味があがりました。終了後のアンケートでは、リモートも良いが、実際に現場を見たいとの声が多数ありました。

- 日時：2021年9月29日(水) 14:00～16:00
- 現場名：利賀トンネル(河床進入)工事
- 場所：長岡工業高等専門学校 講義室
新潟大学 講義室
利賀トンネル作業所 会議室
安藤ハザマ北陸支店 WEB会議室
北陸地方整備局 企画部会議室
- 参加者：長岡工業高等専門学校 学生12名、先生3名
新潟大学 学生42名、先生1名
利賀トンネル作業所 職員4名、国交省職員1名
安藤ハザマ北陸支店 職員1名
北陸地方整備局 4名
- 使用ソフト：ZoomRooms

当日の流れ	
1 利賀ダム事業概要説明	約10分
2 利賀トンネル工事概要説明	約40分
<ul style="list-style-type: none"> ・トンネルの施工方法による分類 ・トンネルの掘削工法による分類 ・利賀トンネルができるまで(掘削～覆工) ・発破状況ビデオ 	
3 質疑応答	約20分
4 若手社員の1日	約20分
5 質疑応答	約20分
6 北陸地方整備局事業概要説明	約10分



発注機関と連携し、リモート市民現場見学会を開催しました。当日は、工事概要の説明後、現場の施工状況をパワーポイントと映像で説明し、北陸地方整備局からも事業概要説明を頂き、理解を深めていただきました。また、入社2年目、入社4年目の若手社員2名より「若手社員の一日」と題し若手社員の一日の過ごし方を説明しました。リモート見学会後のアンケートでは学生から、「動画の音声聞き取りずらくリモート環境が不十分であった」、「現場掘削状況などリアルタイムに映像が観たかった」など今後のリモート見学会の開催方法を考えさせられる意見が多かったが、「若手社員の一日は興味深かった」などの声も聞かれました。

みて、ふれて、知る 新技術・新工法 けんせつフェア北陸in新潟2021

～ インフラDXが未来を変える ～

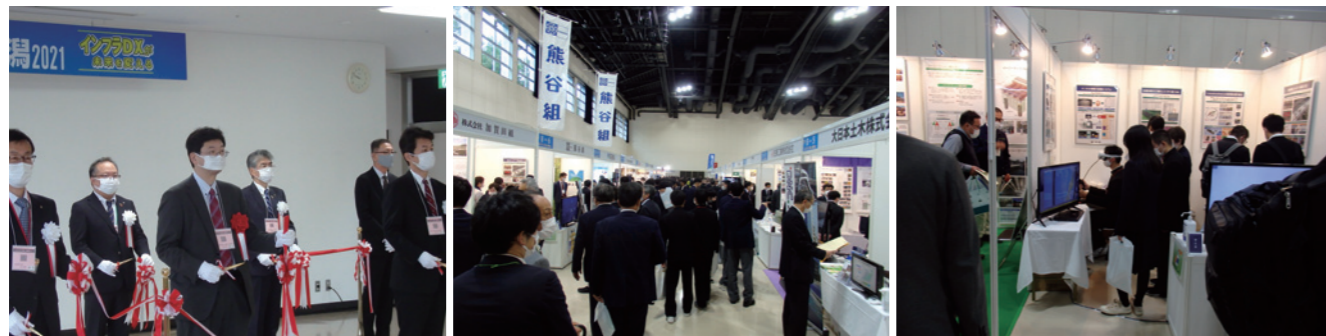
■ 開催日 / 2021年10月20日(水)・21日(木) ■ 会場 / 新潟市産業振興センター



2021年10月20日(水)～21日(木)に、新潟市産業振興センターにおいて「けんせつフェア北陸in新潟2021」が開催されました。

『インフラDXが未来を変える』をキャッチフレーズに、147企業・団体から422技術(うちインフラDX関連100技術)が展示され、2日間で約3,800名が来場されました。

新型コロナウイルスの影響で開催が危ぶまれましたが、出展者並びに関係各位のご協力により感染拡大対策を実施しつつ、無事に開催されました。



■ 日建連北陸支部会員会社からの出展状況

会社名	テーマ	出展技術名	会社名	テーマ	出展技術名
青木あすなろ建設株	①	摩擦ダンパーを用いた橋梁耐震工法	鉄建建設株	②	3次元スキャナを用いた配筋検査システム
	①	無人化施工		②	鉄筋組立ガイダンスシステム
	①	水陸両用ブルドーザー工法		②	コンクリート打設管理システム
あおみ建設株	①	ICT地盤改良工法	東亜建設工業株	②	超低空頭場所打ち杭工法
	③	水底土砂ポンプ浚渫工法		②	HEP&JES工法
	①	軟弱地盤対策工法		③	プラグマジック工法
株植木組 (植木組グループ)	②	建築BIM・土木CIM 3次元データ活用技術	東洋建設株	①	Air-des工法 (大気のを地盤に注入する新しい液化化対策技術)
	②	施工現場のVR体験会		②	水中バックホウ&ロボット(多目的水中機械)
	②	コンクリート品質管理システム「Poc-Tech」		③	洋上風力発電所建設への取組み
	②	統合型工事情報管理システム「Tender One」		①	ARナビ(航行(運航)支援システム)
	③	給・排水管更生技術「SRCT工法」		②	作業船3D施工管理システム (CDM船による施工の見える化)
株安藤・間	①	山岳トンネルの最新施工技術	西松建設株	②	クレーン吊荷制御装置「GYCO」
	①	電気化学的防食工法「リペアカーテン」		③	サクシオンバケット基礎工法
株大林組	②	OTISM / LINING TM (トンネル覆工の品質向上・省力化システム)	日特建設株	②	CIM施工状況シミュレーターと施工現場への活用
	②	ODICT®(ダム情報化施工技術)		①	インフラ監視クラウドシステムOKIPPA
株加賀田組	②	ロボティクス・コンストラクション (建設機械の無人化に向けた取組み)	日本国土開発株	①	スロープセイバー
	①	イーザーラーメン橋 (H鋼桁埋込RC複合門形ラーメン橋)		①	吹付受圧板工法(FSCパネル)
株加賀田組	①	イーザーラーメン橋 (H鋼桁埋込RC複合門形ラーメン橋)	株不動テトラ	①	GIコラム工法
	①	トンネル切羽AI診断システム		①	回転式破砕混合工法
株鹿島建設株	②	IoTが変える土木の現場	株フジタ	①	重機搭載レーザー計測システム
	②	革新的光ファイバ計測を用いたインフラモニタリング		①	全自動ドローンシステム
株熊谷組	①	橋梁用「コッター-床板工法」	株不動テトラ	①	遠隔臨場ドローンシステム
	①	無人化施工VR技術～シミュレーター～		②	GeoPilot®-AutoPile
株鴻池組	①	CXPグラウト工法	株福田組	②	ICTの導入による設計・施工の効率化
	①	鴻池組の災害廃棄物処理技術		①	CI-CMC-HG工法
五洋建設株	①	コンクリート湿潤養生シート アクアバック	株本間組	①	FTJ-FAN工法
	①	Gi-CIM		①	テトラネオ
佐藤工業株	②	UAV地形追従飛行システム	前田建設工業株	①	ヘルメックス
	②	出来型マイスタートンネルPKG		①	没水型港内長周期波対策構造物
清水建設株	③	地温制御芝生育成システム「ソルコン」	若築建設株	①	システム吊足場「フライングステージ」
	②	山岳トンネル覆工自動施工システム		②	ICT起重機船「にいがた401」の搭載技術
大成建設株	②	分割型PCa覆工システム	若築建設株	②	現場施工における3Dモデル活用事例
	②	3眼カメラ配筋検査システム		②	現場施工実績 - (仮称)白川大橋下部工ニューマチックケーソン工法 -
大成建設株	①	新阿蘇大橋施工記録	若築建設株	①	山岳トンネルにおける自動施工技術
	③	カーボンサイクルコンクリート		①	山岳トンネルにおけるAI技術
大成建設株	②	コンクリートひび割れ診断	若築建設株	②	吊荷回転制御装置「水中ジャイロ」
	②	重機無人化・自動化技術		①	AIクレーンカメラ人物検知システム
大成建設株	②	T-iDigitalField	若築建設株	①	AIクレーンカメラ人物検知システム
	②	T-iDigitalField		①	AIクレーンカメラ人物検知システム
大成ロテック株	①	リラクスファルト	若築建設株	①	AIクレーンカメラ人物検知システム
	③	インジェクト工法		①	AIクレーンカメラ人物検知システム
	①	ワンダーコーティングシステム		①	AIクレーンカメラ人物検知システム
	①	TR ミックスアーク		①	AIクレーンカメラ人物検知システム
	①	TR ストロングースCD混合物		①	AIクレーンカメラ人物検知システム
	①	スーパーReパイプ工法		①	AIクレーンカメラ人物検知システム
大日本土木株	①	グラスブロッカー	若築建設株	①	AIクレーンカメラ人物検知システム
	②	コンクリート仕上り高さ管理システム「コテブリ」		①	AIクレーンカメラ人物検知システム
	①	改良土を使用した補強土壁「ハイビーネオ」		①	AIクレーンカメラ人物検知システム
	①	先端拡大型補強材「ミニアンカーPI」		①	AIクレーンカメラ人物検知システム
株竹中土木	②	切羽変状可視化システム	若築建設株	①	AIクレーンカメラ人物検知システム
	②	盛土材料品質管理システム		①	AIクレーンカメラ人物検知システム
	②	AGF-Tk工法		①	AIクレーンカメラ人物検知システム

出展テーマ ① 安全・安心 ② 連携・活力 ③ 自然・文化



令和3年度 「建設技術報告会」

■ 2022年1月12日(水)～25日(火)【土日を除く10日間】 ■ 開催形式／オンデマンド配信

北陸地方における建設事業の円滑な推進を図るため、官公庁及び民間の建設会社において、新たに研究開発された新技術・新工法等を報告することにより、研究開発技術の普及を図る事を目的に建設技術報告会が開催されています。

建設技術報告会は平成7年度から開催され、今回で26回目となりますが、新型コロナウイルス感染拡大を受け昨年度に続き、オンデマンド配信による開催となりました。

【報告技術の日建連会員会社と報告内容】

会社名	テーマ	報告技術名
1 前田建設工業(株)	①	完全自動鋼製支保工建込みロボットの開発
2 佐藤工業(株)	①	砂防CIM の取組
3 若築建設(株)	①	高性能水中位置管理機能搭載ブロック据付支援システム WIT B-Fix Neo
4 (株)本間組	①	パイプライン敷設工事における3Dモデルの導入効果について
5 あおみ建設(株)	②	供用中の栈橋を耐震補強するRe-Pier工法
6 五洋建設(株)	①	地盤改良工事の見える化技術Gi-CIM の開発
7 鹿島建設(株)	①	山岳トンネル工事を対象とした自動化施工システムの開発
8 清水建設(株)	①	未来の建設生産システムの構築に向けて
9 (株)フジタ	①	遠隔臨場ドローンシステム
10 (株)福田組	③	豪雪地域における積雪を考慮したクローズド型廃棄物最終処分場
11 (株)不動テトラ	④	超硬質地盤に対応した低変位深層混合処理CI-CMC-HG工法
12 大成建設(株)	⑤	カーボンリサイクル・コンクリートの開発
13 東亜建設工業(株)	⑥	軟弱地盤調査の効率化を目指した原位置地盤試験機の開発

報告テーマ分類

- ① i-constructionによる生産性向上、インフラ分野のDX
- ② 社会資本的的確な維持管理・更新
- ③ 雪に強い地域づくり
- ④ 自然災害からの安全確保
- ⑤ 環境の保全と創造
- ⑥ その他

社会資本整備の重要性に関する シンポジウム



■ 開催日時／2021年10月26日(火) 14:00～16:00 ■ 開催場所／NEXT21 6階 新潟市民プラザ

近年の公共事業予算については、政府においては「防災・減災、国土強靱化のための3か年緊急対策」に続き、今年度を初年度とする「防災・減災、国土強靱化のための5か年加速化対策」が閣議決定され、5年間の事業規模で概ね15兆円、うち国土交通省分で9.4兆円とし、気候変動で激甚化する風水害、南海トラフ巨大地震など切迫する大規模地震への対策に加え、インフラの老朽化対策、デジタル化に取り組むこととしております。

日建連は、本シンポジウムを通じて、防災・減災、国土強靱化をはじめ社会資本整備の重要性や安定的な予算措置に向けて地元経済団体並びに各発注者と連携して多くの方々から公共事業の必要性について一層の理解を得ていただくため、広報・啓発のためのシンポジウムを開催いたしました。

- 主催：一般社団法人 日本建設業連合会北陸支部
一般社団法人 新潟県商工会議所連合会
- 後援：国土交通省北陸地方整備局
- 協賛：日刊建設工業新聞社、日刊建設通信新聞社、北陸工業新聞社、日本工業経済新聞社、建設ジャーナル社
- 参加者数：150名(一般50名、整備局23名、商工会12名、日建連会員65名)

1 『北陸地整における社会資本整備の取組』

国土交通省北陸地方整備局企画部長 松浦 利之 氏



挨拶 岡田支部長

2 『国家防災国土軸と新潟』

亀田商工会議所会頭 五十嵐 豊 氏



挨拶 福田会頭

3 『「荒廃する日本」にならないために』

(有)MAX-ZEN performance consultants
代表取締役 丸山 結香 氏



松浦企画部長

自然災害やインフラ老朽化等、社会資本整備に関する課題は山積となっており、社会生活の重要な機能を維持するためには、防災・減災、国土強靱化の加速化・深化が重要であり、デジタル技術の活用が不可欠となっている。
そういった状況下における北陸地整の「最近の取組」、「関連する主な事業」について講演していただいた。



五十嵐会頭

大規模自然災害等のリスクが顕在化する中、防災・減災、国土強靱化をはじめ社会資本整備の重要性について、あるべき国家観を踏まえ、新潟の位置づけや果たすべき役割について講演していただいた。



丸山氏

自然災害の大規模化だけでなく、加速する人口減少や蔓延する感染症という異なる脅威に、我が国の「荒廃する日本」化はストップをかけられない状況にある。社会資本への投資が止まると、糧となる産業、経済も荒れることから「荒廃するアメリカ」での実体験から社会資本への「投資の強化」を求めるとの講演をしていただいた。

現場で輝く
けんせつ小町



「けんせつ小町」は建設業で働くすべての女性の愛称です。建設現場で働く技術者・技能者、土木構造物や建物の設計者、研究所で新技術を開発する研究者、お客様とプロジェクトを進める営業担当者、会社の運営を支える事務職など、活躍の舞台は多岐にわたります。

「建設業に 明るい未来を切り拓く」

Q. なぜ土木技術者への道を志したのですか？

A. 私は昔からお父さんっ子で、学校が休みの日にはよく父の職場に連れて行ってもらっていました。父は小さな水道会社を営んでおり、大工さんと一緒に家づくりをしていました。そんな環境にいたせいか、私は昔からのづくりが大好きでした。大学進学を考える頃になると、人々の生活を支えるような大きなものづくりがしたいと思うようになっていました。今思えば、仕事内容は少し違いますが父の背中を追いかけて土木技術者という道を志したのだと思います。

Q. 入社されてから現在まで、どのような仕事に携わってこられましたか？

A. 現在入社13年目になりますが、最初の3年間は内勤部署、4年目以降は外勤部署の配属です。

1年目は土木生産計画部に配属となり、北陸新幹線金沢延伸工事の応札に向けての積算業務を担当しました。公示された見積参考資料(工種と数量が記載された資料)を元に積算をする業務です。土木工事は工種も多く、1年目の新人には専門用語だらけの見積参考資料の意味を理解するのも必死でした。でも、先輩にたくさん教えてもらいながらなんとか完成した積算を元に応札した結果、無事に工事が受注出来た時には、言葉では言い表せないくらいうれしかったことを覚えています。

2~3年目は土木技術部に配属となり、現場の技術的支援をすることとなりました。主な担当業務は、仮橋の設計・ダムコンクリートの温度応力解析・足場支保工計算書の照査などでした。自分が設計した仮橋が現場に架けられる、それは非常に緊張感があり非常に感動的な経験でした。

4年目からは外勤部署に配属となり、現在5現場目です。担当した工事は北陸新幹線工事が3現場、農業用水用のシールド工事が1現場、廃棄物の最終処分場工事が1現場です。外勤に配属になってまず驚いたのは、仕事内容の多様性です。QCDSE全ての項目を網羅するために作業所一丸となって様々

な業務をこなしていました。様々な仕事内容がある中で私がこれまでに担当してきた業務は、測量・検測・工程表作成・作業調整などの施工管理業務、地元住民への見学会対応などの渉外業務、設計変更や設計照査などの工務業務などです。技術的な知識やスキルはもちろん大切ではありますが、これまで携わってきた業務を通して感じた一番大事なことは、いかにコミュニケーションをとることが出来るかだと思います。発注者の方、地元の方、協力業者の職人さん、様々な立場の方との通じた関係性を築けるように心掛けています。

Q. 今まで経験された仕事の中で、思い出に残っていることをお聞かせください。

A. どの経験も思い出深いものだけですが、強いて言えば外勤3現場目に担当した北陸新幹線敦賀延伸工事での工務経験が特に印象深いです。

外勤部署に配属になってからの最初の2現場では施工管理ばかりをしていたので、工務とはなんぞや?というところから所長や先輩方に「いろは」を叩き込んでもらいました。現場の先をよむ力・わかりやすい説明資料を作って必要性を納得してもらうための協議力・社内の支援部署との連携力、施工管理だけではない「現場を運営する力」を学ぶことができました。

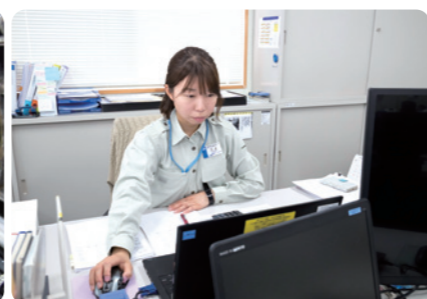
Q. 仕事に関してどのようなやりがいを感じておられますか。

A. また、後に続く女性技術者への一言をお願いいたします。

A. 工事をしている時は大変なことの方



シールド現場での測定の様子



事務所での内業の様子



清水建設(株)北陸支店
主任

三上 尚美
Naomi Mikami

今回は、清水建設(株)北陸支店に勤務されている三上尚美さんをご紹介します。

が多くて、時には心が折れそうになることもあります。そんなとき、私は自分が携わった構造物を観に行き行って背中を押してもらおうにしています。自分が造ったものがこの世の中に存在している、人々の生活を支え続けていると感じること、そこに大きなやりがいを感じます。

近年は、建設業に従事する女性技術者の数もかなり増えてきていて、昔のように珍しいと言われなくなってきました。ただ、ライフイベントによる働き方の変化を模索している人は多いと思います。将来を不安視する人も少なくないのではないかと思います。逆に前例やロールモデルが少ない分、自分の理想的な働き方を前例にしているのではないのでしょうか。かくいう私もまだまだ模索している一人ですが、白紙のキャンパスに好きな色を塗れるんだと考えて、一緒に建設業に新しい価値を創造していきたいでしょう。

皆さんこんにちは!以前こちらの機関紙【ゆう】に寄稿させていただいたのは2016年12月でした。その時は私の乳がん体験から感じたことなどを書かせていただきました。がんという授かりものを与えられてからというもの、自分の命、家族の命、周りの人たちと一緒に暮らすペットたち、日々の暮らしの中でいただいている命…自然と考えるようになりました。

昨年、コロナウイルス禍で様々な意見がある中開催された東京オリンピック・パラリンピック。いつも以上に命を懸けて闘志を燃やした選手の方皆さんからいただいたのは、大きな感動でした。その選手たちが宿泊する選手村では、日本の畜産で育てられた牛豚鶏は出すことができなと聞きました。農業大国日本、さらに私が住む新潟は農業王国とも言われています。なぜ、品質が高く安心安全と定評がある日本産のお肉が提供できないのか、とてもショックでした。

みなさんは【アニマルウェルフェア】という言葉をご存知ですか?日本語では

【動物福祉】と訳されます。どうやらこのアニマルウェルフェアの水準が日本は世界に比べて低く、つまり動物たちに優しい育て方をしているというのです。これに対しても様々な意見があります。「どうせ殺して食べてしまうのだから効率的、経済的に育てればいい」というのが日本では恒常的考えです。しかし世界に目を向けてみると、「私たちがいただく命、亡くなる直前まで不安や恐怖、痛みや飢えをできる限り取り除いてあげなければならない。その種の生態の本来持つ習性を保てるよう飼育場所を整備すべき。」という、畜産動物たちへの感謝の精神があたり前であり、牛は鎖で繋がれず放牧され大地の牧草を食べ、豚は自由に遊びまわれる広い豚舎で育ち、鶏は止まり木で休める平飼い…。

この話をきいたときは、正直、何も知らずにこれまで命を口にしていた自分が恥ずかしくなりました。国土が狭い日本において、他国と同じようにとはなかなかいかない現実もありますが、毎日毎日

いただいている動物たちの命について私たちはもっと関心を寄せて、これからの日本の畜産の在り方を考えていく必要はあると思います。今、若手農業士の方の中にはアニマルウェルフェアの世界水準に負けぬような新たな挑戦を始めている方もいらっしゃいます。まだ数は少なく、お肉の値段も比べれば高価ではありますが、動物たちへの愛情、感謝にあふれる農場でストレス少なく育った動物たちのお肉や卵を私はできるだけ選ぶように心掛けています。

必ず終わりが来るこの命について、静かに考えるようになってから、私は物事の捉え方、見方、考え方、生き方も、変わりました。何を、誰と共に生きるのか、何を、何を身にまとうのか。正解など無いのかもしれませんが、自分なりに答えを探しながら生きることは、実はとても楽しく幸せな毎日でもあります。畜産動物たちに、農業士の皆様へ感謝の気持ちを忘れずに最期まで生きていきたいです。

エッセイ ESSAY



フリーアナウンサー
伊勢 みずほ
Mizuho Ise

『命について』



我が家の猫ちゃんたち



猫の殺処分ゼロのチャリティシャツ

「eco工作で作る事の楽しさを伝えていきたい」



NaruecoFactory
ecoクラフト作家 講師
小坂井 成絵 Narue Kosakai

早いものでeco素材を使った工作のワークショップを始めてから10年になります。子供の頃から暇さえあれば絵を描いたり物を作ったりするのが大好きでした。子供が生まれてからは季節を感じられる物を一緒に作っては、飾って楽しめました。ある時、息子の通っていた幼稚園の先生から「放課後の時間に工作のワークショップをして頂けませんか?」とお話を頂き、私はたく

さんの子供達に楽しく作って貰う為に、手に入りやすく加工しやすいペットボトルやキャップなどのeco素材を使うこと提案。どんなのが可愛くて喜んで貰えるかを考えてサンプル作りをしました。

NaruecoFactoryという活動名で「作って楽しい〜飾って可愛い〜」をテーマに eco工作のワークショップはいろいろなイベントからお誘いが来てシャンパンのコルクのコルク人形やミズレワイヤーで作るカラフル虫さんも加わりワークショップの規模も回数も増えてたくさんの子供達の笑顔を見れる事が私の喜びになりました。

それが、コロナ禍になりイベントが開催されなくなりワークショップの回数も激減…。そんな中でも新たに作品を作り続け、子供の頃から好きなお花をペーパーフラワーやドライフラワーなどを作って友人などのお店のディスプレイに使って貰いました。それで私はシンプルに物作りが好きだと気がきました。

見た人がほっこり笑顔になってくれるといいなあ…と想いを込めて作品を作っています。

これからもワークショップや作品達が繋い

でくれるご縁や出逢いを大切にしていきたいです。それと周りの人達への感謝を忘れず心豊かに自分のひらめきを信じ活動を続けて行きたいと思います。



「佐渡島で世界に通用するクラフトビールを造る」



株式会社ピアバイント
代表取締役 兼 tOki brewery 醸造責任者
藤原 敬弘 Takahiro Fujiwara

なぜ、佐渡島でクラフトビールを造るのか、よく聞かれる質問です。理由は単純で「そこにクラフトビールがなかったから」。クラフトビールを造り、その地域に文化として根付かせる取組を何もなかったところから始めてみたい。そういった想いから佐渡島でのマイクロブルワリーの立ち上げを決意しました。クラフトビールに関わらず、醸造するという行為は地域と非常に強い繋がりが有ります。佐渡島

には日本酒の蔵が5つもあり、それぞれの地域で親しまれるように、tOki breweryのクラフトビールも佐渡島の地元の方に親しみを持って飲んでもらうことを目指しています。

一方で世界に目を向けると、アメリカをはじめとする様々な地域でたくさんの美味しいクラフトビールが造られ、愉しまれています。クラフトビールの面白さはその多様性であり、飲み手がより多くの選択肢から自分の飲みたいお酒を選ぶことができます。日本国内でもクラフトビールの品質は年々上がってきており、ビアバーや酒屋で美味しいクラフトビールを飲むことができます。ですが、日本のクラフトビールの中心地はやはり関東圏であり、東京を中心とする周辺地域にマイクロブルワリーが集中しています。私は地域関係なく、美味しいクラフトビールを造ることは可能だと考えています。むしろ、様々な地域でクラフトビールを造ることが、多様性・地域活性化・文化浸透の観点から、業界に対して素晴らしい効果をもたらすと信じています。飲み手としてもたくさ

んの種類のお酒が愉しめるのは、単純に嬉しいものです。

私の本職はソフトウェアエンジニアです。出身は北海道で、地元の苫小牧高専を卒業しました。高専時代から数えると20年はプログラミングに触れており、今でも現役でコードを書いています。そんな自分が醸造の世界に来て、ここはデジタル化が非常に進んでいない領域であることに気が付きました。特に製造に関しては、デジタル化する余地が多くあります。醸造もはじめたばかりですが、自分のソフトウェアエンジニアリング知識を醸造業界に役立てていこうと考えています。

佐渡島でも品質の高いクラフトビールを醸造し、それを日本各地、全世界に対して販売できること。全世界で使われるような醸造ソフトウェアを、佐渡島で造って発信していくこと。この2つが自分のモチベーションであり、5年以内に実現したい目標です。是非、佐渡島に来た際には、tOki breweryのクラフトビールを飲みに来てください。



ゆるたいむす

「瓦でコラボ、つながるAGANO」



株式会社岩松
齋藤 貴司 Takashi Saito

阿賀野市(安田)の町おこしのため、2018年8月に新設された“瓦テラス”。

故元(株)めんつう会長 羽田 一司氏が生まれ故郷であり育ててくれた安田に恩返しをしたいと、自分の資産を投じて全国に発信する名所にと建設されました。

ただの観光施設だけではいけないと考え、名産品の開発を思案します。

そして、まず初めに取り組んだのが、絶滅の

危機にあった「日本うなぎ」の安定供給です。安田の豊富な伏流水を使って名産を作れないかと考え抜いた結果、「あがの夢うなぎ」としての養殖事業です。

建設が予定される“瓦テラス”の裏に養殖場を建設し事業化に取り組みました。

瓦テラスの裏にある養殖場で育てられた「あがの夢うなぎ」は、その後建設される“瓦テラス”で提供されるようになります。

このように“瓦テラス”は「食」とおとして阿賀野市を堪能していただく拠点として、安田地区「瓦ロード」のスタート地点にオープンしました。

地元の伝統産業である安田瓦 約12,000枚を使ったモダンな建物、手が届くところに瓦屋根がありレストランでは瓦づくりの英知を結

集してできた器でお料理を楽しめます。

阿賀野市で取り組んでいる「乾燥食材」を活用した地元業者さんの食のおみやげ。

瓦ロードに集積している業者さんの瓦グッズ、器の販売。

阿賀野市唯一の高校「阿賀野高校」の生徒さんとのコラボ商品開発。

“瓦テラス”は地元とつながりコラボし阿賀野市の良さを伝えます。

来てみて、知って、体感していただくための施設です。

“瓦テラス”は今後も「瓦でコラボ、つながるAGANO」をコンセプトに、地方創生気運の高まりの中「産・官・学・金」のスクラムで、これからも阿賀野市を元気づけていきます。



「セルフケアで身体が楽に♪自分の身体は自分で守る!!」



リラクスペース
Wish(ウィッシュ)
諸橋 希耶 Maya Morohashi

はじめまして!こんにちは。新潟市秋葉区にありますがリラクスペース Wish(ウィッシュ)の諸橋 希耶(まや)と申します。

新潟市秋葉区在住、生まれも育ちも新潟っ子で地元大好きです!

高校卒業後、建設業に就職し、土木で重機オペレーターをしていましたが、9年間務めた会社が倒産し、それがきっかけで何か他の

ことをしようと2005年姉妹でリラクゼーションサロン開業しました。タイ古式マッサージ 資格習得し、2013年に天城流湯治法 資格習得。

今では新潟で唯一「天城流湯治法 湯治師」と言う資格を頂き精進しているところです。

サロンでは、タイ古式マッサージと天城流湯治法を組み合わせた当店オリジナルメニュー「心・体・調律ケア」を中心に、痛みや凝りのケアはもちろん、痩身法でダイエット、さらに姉がフェイシャルエステで美容まで幅広いニーズに対応しております。

友達の家遊びに来たような気分で、ほっこりしていただける癒しの空間を作っていけ

たらと思っています。

完全予約制のサロンを姉妹で行っていますので、小さなお子様連れのママさんも大歓迎です!

その他に、月一で「陶板浴にいつ」様にて施設をお借りして、陶板浴で温まりながらのセルフケアレッスンや、今はコロナ禍でなかなか行けていませんが介護施設のボランティア、地元ラジオのパーソナリティなど新潟で天城流湯治法の輪を広げる活動もしています。

自分の身体は自分で守る!がモットーで、これからも地域の皆さんと一緒に元気で毎日笑って過ごせるようにしていきたいと思

リラクスペース
Wish

新潟市秋葉区川口2277
OPEN: 9時 - 18時
CLOSE: 日曜・祝日
TEL: 0250-23-5510

LINE@

MY 私の PRIVATE TIME



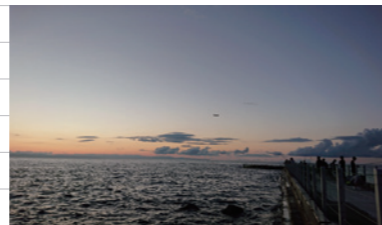
(株)不動産テトラ北陸支店
支店長
佐々木 祐
Yuu Sasaki

「北陸に帰ってきて思うこと」

令和3年4月1付、弊社九州支店沖縄営業所から北陸地区新潟へ赴任し、株式会社不動産テトラ北陸支店長を拝命致しました。姓は佐々木、名は当機関誌と同名の「ゆう」(祐)と申します。	者への心配り・気遣いを教えて頂きました。今でもその教えを大切に継続していきたいと心も初心に帰ってきております。	しかしながら、北陸をしばらく離れていましたのでななおのこと感じておりますが、四季のすばらしさ、水・日本酒・食材の美味しさ、人情を含めた温かな雰囲気に触れることができております。
何卒よろしくお願ひ申し上げます。	その後北陸地区(新潟・富山・石川・福井)ではトータル21年間過ごしました。	私も会員多数の皆様と同じく転勤族でございますので、何時どのような辞令通知がくるのか全くわかりません。その時がやってくるまで、しばらくはこの北陸を十分に満喫したいと思っております。
実は私はここ、新潟市生まれ、さらに弊社北陸支店も所在する下町である沼垂地区、鏡が岡の出身でございます。	さて北陸に戻って参りまして、最近のマイブーム(死語ですか?(笑))は歩いて散策することです。	
今も酒蔵がそのまま残る今代司酒造様の目の前で幼少を過ごしました。酒蔵の中へご近所の子供たちと入っていった記憶や、今や立派な幹線道路である栗の木バイパスがまだ栗ノ木川で、その川岸にタニシがたくさんいて、拾い集めた記憶が残っております。	当然通勤も行き帰り歩いておられますし、1日10,000歩を目標にできるだけ外出は歩くよう心掛けております。	
今からちょうど30年前の平成3年に学校を卒業し、当社合併前の日本テトラポッド(株)(のちに平成7年(株)テトラに社名変更→平成18年不動産建設(株)と合併、現(株)不動産テトラ)に入社致しました。しかも最初の赴任地がこの故郷の新潟で、その頃新潟市花園にあった新潟支店配属でありました。	まだまだ苦手ではありますがゴルフの鍛錬にもなっているような「気」がしております。	
当時社内でも名物支店長だった故日野三之支店長(現、東亜建設工業(株)北陸支店、日野雅博支店長様の御父様であります。)のもと3年間みっちり、現場及び仕事の段取りの大切さ、お酒の上手なたしなみ方、そして他	また飲む量は少ないですが毎晩の晩酌も楽しみの一ひつです。北陸新潟生まれですので日本酒か?と思われるかも知れませんが、日本酒もたいへん美味しく頂くのですが、前任地沖縄でおぼえた泡盛、特に古酒(クースー)にはまっています。そのクースーを水割りやロックで頂きながら料理をするのが最近の日課かもしれません。いわゆるキッチンランカーってやつです。	
	以上簡単に自己紹介をさせて頂きました。	
	久々の北陸地区での業務は施工条件や工期などにおいて冬期気象の厳しさを目の当たりにし、たいへん苦心しております。	



今代司酒造「錦鯉」と菊之露酒造「菊之露V.P.ゴールド」



散歩時風景(新潟西海岸)

事務局だより

2021年度下半期(9月~12月)の主な支部活動報告

・関係機関や会員の皆様からご協力をいただき以下の活動を展開してきました。

東日本高速道路(株)新潟支社との意見交換会

開催日/2021年9月29日(水)
会場/白山会館
内容/ホームページに掲載

学生を対象としたリモート市民現場見学会

開催日/2021年9月29日(水)
対象学生/新潟大学・長岡高専
現場名/利賀トンネル(河床進入)工事
内容/本誌P3に掲載

中日本高速道路(株)金沢支社との意見交換会

開催日/2021年10月5日(火)
会場/白山会館
内容/ホームページに掲載

安全パトロールの実施

開催日/2021年10月5日(火)、6日(水)
内容/安全環境対策委員会(安全分科会)で新潟県内3現場の安全パトロールを行いました。

けんせつフェア北陸in新潟2021

開催日/2021年10月20日(水)21日(木)
会場/新潟市産業振興センター
内容/本誌P5に掲載

社会資本整備の重要性に関するシンポジウム

開催日/2021年10月26日(火)
会場/新潟市民プラザ
内容/本誌P8に掲載

「土木の日」記念講演会

開催日/2021年11月22日(月)
参加者/135名
会場/新潟市民プラザ
内容/土木学会関東支部新潟会と共催しました。
講演I「新潟駅周辺整備について」
新潟市都市政策部 新潟駅周辺整備事務所長 今井利司氏
講演II「私とゴルフ」
プロゴルファー(現LPGA会員) 村口史子氏

新潟市議会政策研究会との情報交換会

開催日/2021年11月30日(火)
会場/新潟市役所本館6階 委員会室
内容/公共事業の予算の確保・週休二日の実現・CCUSの普及推進等についての情報交換を行いました。

労働災害防止安全推進大会

開催日/2021年11月30日(火)
会場/新潟グランドホテル
内容/会員会社の建設現場における更なる安全意識の高揚と労働災害撲滅に向け決意を新たにしました。
記念講話/
「労働安全衛生行政の動向について」
新潟労働局 労働基準部 健康安全課長 上田克郎氏
安全事例報告/
「小さな安全活動の積み重ねで安全環境を構築」
鹿島・佐藤特定建設工事共同企業体
新姫六発電所新設導水路JV工事事務所
前現場代理人(現 土木部担当部長) 笠川雅章氏
委員長表彰/
株式会社 熊谷組北陸支店
信濃川左岸流域農業水利事業1号幹線用水路1号トンネル建設工事
信濃川左岸シールド作業所

BACK STAGE 編集後記

2021年4月より故郷 新潟での勤務となりました。街並みは古町の和、三越、万代レインボータワーなどが撤退し寂しく感じましたが、大きく変化はしていないように思います。ただ日本が抱えている人口減少問題は、特に大都市圏以外は著しく北陸3県の新潟、富山、石川においても年々人口が減少しております。特に新潟県の人口減は多く1995年249万人をピークに減少をたどり、2020年には217万人と25年で30万人減、政令指定都市である新潟市も2005年81万人をピークに2020年78万人と15年で3万人減となっております。人口減少は地方財政に大きな影響を及ぼすと言われております。人口減少とそれに伴う経済・産業活動の縮小によって、地方公共団体の税収入は減少するなか、その一方で高齢

化の進行から社会保障費の増加が見込まれており、地方財政はますます厳しさを増していくことが予想され、特に人口減に伴う少子高齢化による労働力不足は日本全体の問題となっております。建設業界においても、労働者不足は深刻と言われておりDX化、ICT化、無人化施工、ドローンの活用など、今後より一層の労働環境改善、技術開発等が期待されております。最後になりますが、同じ新潟出身で67年間にわたり明治大学ラグビー部監督を務め、日本ラグビー界の発展につくした故 北島忠治氏の今も明治大学で受け継がれている言葉である【前へ】を常に意識し、日々一歩でも【前へ】進み、縁あって赴任した新潟で足跡を残せればと考えております。

(浦井 卓 記)

広報委員会スタッフ

委員長	東峰 裕之(五洋建設)
委員	岡崎 豊彦(熊谷組) 久保 茂樹(安藤・間)
	石附 裕(植木組) 稲田 克彦(大林組)
	濱 一男(大本組) 垣内 俊彦(鹿島建設)
	信清 孝樹(五洋建設) 小川 晃市(清水建設)
	小林 恵一(銭高組) 上田 進(第一建設工業)
	岩佐 一郎(大成建設) 小嶋 洋一(東亜建設工業)
	津川 圭一(フジタ) 浦井 卓(前田建設工業)
	工藤 悟(若築建設)
事務局長	三澤 正人(日本建設業連合会北陸支部)